

「税の課題、そして未来へ」

静岡市立東豊田中学校3年 高島 由衣

あなたは、先日の選挙で「減税」という言葉を目にしただろうか。その言葉は、演説に加え、ニュースや新聞でも大々的に報じられていた。その報道を見て、私はふと疑問を抱いた。減税とは字の通り、税を減らすことだが、税金は社会でなくてはならない物だ。もし減税したら私達の生活はどうになってしまうのだろうか、と。

まず、なぜ今減税が注目されているのか。それは、物価と賃金の上昇が噛み合わず、家計への負担が大きくなっているからだ。確かに、最近は食料品や生活用品など色々な物の値段が上がっている。しかし、賃金は物価高をカバーできるほど上がっていない。そこで、税負担を減らす、もしくは無くせば、手取りが増え、支出が少なくなり、家計の負担は小さくなるということだ。そういった理由から減税が政策の重点となっていた。実際に、家計に関わる税金である所得税の減税は令和六年度に実施された。所得税は、給料から支払う税のことで、このことによって家計にゆとりが生まれ、消費者にとって良い効果があったと言える。

しかし、減税を求める声が大きい一方、実現させるには難しい面がいくつかあるのも事実だ。そもそも、税金は現代社会の基盤となっている。例えば、税収の約三割は社会福祉に使われており、教育や交通の整備、地域への支援にも使われている。そんな税収がより少なくなれば、国民の実質的な負担は増えてしまう。

次に、税収が少なくなると、政策が実現できなくなる可能性がある。国家の財源は税金であるため、資金がなくなると将来のためのサポートができなくなってしまう。特に最近は少子高齢化による現役世代への負担が増えており、対応が求められている。

このように、税を取り巻く現状には様々な課題がある。よりよい社会を作るためには、賃金や少子高齢化などの問題を解決することが必要不可欠だ。では、私達にできることは何だろうか。

一つは、税について正しい知識を得ることだ。そうすることで、税の在り方を考えるきっかけになるだろう。偏った知識ではなく、多面的に税の仕組みを知ることが大切だ。ささいなことでも調べてみるなど、積極的に情報を仕入れると、税に対する関心が持てる。また、税への関心を周りに広めていくことも大切だ。税について友達と話してみることで、違う意見に触れたり、自分の考えを確立したりできる。そして、税も含めて、政治に対する自分の考えを持ち、投票に行くこと。それが私達ができる、税金に対する最大の意思表示となる。

税は、社会の変化に合わせて名前や制度を変えてきた。これからも、変えていく必要があるかもしれない。税の在り方を決めるのは、誰かじゃない、私達だ。